

休み明けを元気に!

夏休みが終わり、2学期が始まりましたが、御家庭でのお子様の様子はいかがでしょうか。私もそうでしたが、一般的に大人は、規則正しい生活を取り戻そうと、子どもに厳しくなりがちです。ただ、子どもたちが元気に休み明けを迎え、過ごすためには、大人の声のかけ方こそ大切です。

日本学校心理学会理事長で、東京成徳大学の石隈利紀教授は「旅行へ行ったり、遅く起きたりした日々が終わり、また学校へ行くのは嫌だなと思うのは、正常な反応」と言われます。

『いつまで寝ているの?』『宿題は終わったの?』と言うのは、自分の不安を子どもにぶつけているのかもしれないとおっしゃいます。楽しい夏の思い出すら、つらい記憶になりかねません。

「夏休み明けは、夏の体験を友達とシェアする場と考えると、休み明けのハードルがぐっとさがります」と助言するのは、東京都立小児総合医療センターの副院長で、子ども家庭支援部門の田中哲部長(児童精神科)。休みの終盤は、楽しかったことを思い出し、達成感を味わう時でもあるという。また、休み明けの楽しい行事の話題を通じ、学校へ行く楽しみを見つけるといい。

たとえ宿題が残っていても、「どうするの!」と相対すると、子どものやる気を損なわせる。「一緒にやる?」などと同じ方向を向くことが大切だ。

生活習慣を取り戻すため、週末の朝に親子で、一緒に散歩したり、一緒に朝食を作ったりすると、早起きのきっかけとなる。

文部科学省の不登校生徒に関する追跡調査研究会の調査によると、小学校1年~中学校で不登校になった子どもが休み始めた時期は7~9月が最も多く、夏休み明けに多くなると考えられるという。

休みが明けても起きられず、吐き気や腹痛を訴えることもある。田中さんは「心が発するストレス反応が体に出るもので、決して仮病ではない。真剣に受け止め、子どもの体に触れて欲しい」という。背景にいじめや勉強の不安など、深刻な悩みを抱えていることもある。石隈さんは「子どもが『大丈夫』と答えても、2度、3度と声をかけ『気にしているよ』というメッセージを伝え続けて欲しい」と話す。

(朝日新聞、8月26日付き be on 続・元気のひけつ 宮島祐美氏 より)

以上の文は、朝日新聞の記事を引用したものです。夏休み明けは、マスコミ報道でも気になっておられる方もいらっしゃると思いますが、ハードルが高く感じる子どもがいるのも事実です。何か心配なことがございましたら、遠慮なく担任や学校に相談してください。

2学期も全ての児童が「笑顔で登校! 満足して下校!」できるよような学校にしていきたいと思っています。1学期と同様、保護者の皆様、地域の皆様の御協力をお願いいたします。



宿題教室!



8月21日付案内で紹介しましたが、学力向上と地域の方とのふれあいを目的に、夏休み宿題教室を25日(金)30日(水)の二日間、11名~12名が参加し実施しました。

教えていただくのは、婦人会の森さん、山口さん、竹村さん、民生児童委員の菊先さん、STの吉田先生、そして、山口大学教育学部の中山さんです。

どの先生も、熱心に教えていただきました。学年によっては、マンツーマンに近い状態でした。

先生方に感想をお聞きしたら、「とても楽しかった。」「頭の体操になった」「どの子も集中して休まず勉強していたので感心した。」という感想をお聞きしました。中には、子どもたちから、「ここが分かりません。」「ここを教えてください。」と自分から聞く子どももいました。

子どもたちも、「楽しかったです」「全部終わりました。」などと話してくれた子どももいました。

「来年度もお願いできますか?」とお願いしたところ、「いいです」と快く引き受けていただきましたので、来年度も実施したいと思います。また、ご案内いたします。

地域の方々に、色々な面で子どもたちに関わっていただいている、とても感謝しています。

今後も地域の方々や保護者の方々の御支援、御協力をいただき、「地域から愛される学校」を目指して努力していきます。

